

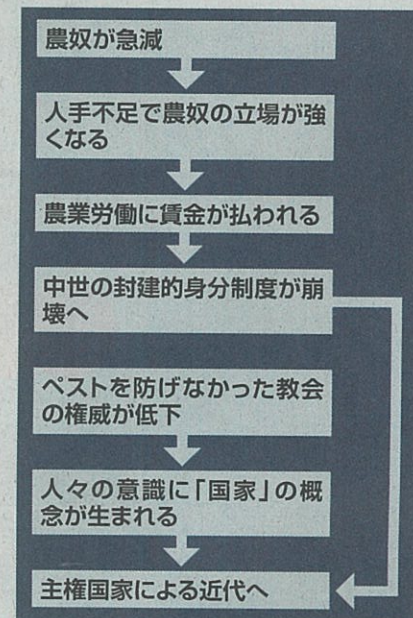
「パンデミック」も運んだ交易

編集委員 山崎貴史

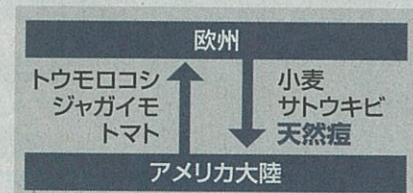
新型コロナウイルスの感染拡大が「パンデミック（世界的な大流行）」とみなされた。過去の感染症の広がりや振返ると、社会の変革をもたらしてきた歴史が浮かび上がる。

DATA

② 黒死病が欧州社会の変化を加速した



③ 「コロンブスの交換」



シルクロード ユーラシア大陸を横断して中国と欧州を結んだ古代の交易路。中国産の絹が運ばれ、東西の文化や民族が交わった。ドイツの地理学者リヒトホーフェンが1877年に名付けた。2014年、中国など3か国の関連史跡が「国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）」の世界文化遺産に登録された。

スペイン風邪 第1次世界大戦末期、欧州を中心に世界に波及したインフルエンザ。名称が「スペイン」なのは、各国が感染の実態を隠す中、中立政策をとったスペインが感染に関する情報を公表したためとされる。

歴史上、感染症は人やモノの移動に伴って波及してきた。今やグローバル化は格段に進んだ。新型コロナウイルスの広がりが方も、従来の感染症に比べて圧倒的に速い。

瞬時に拡散

世界動かしてきた感染症

シルクロード 古代、中国と欧州を結んだシルクロード。中国の絹を西方に運んだ交通路だ。いわば経済のグローバル化の先駆けである。商人の盛んな交流に伴い、インドが起源とみられる天然痘も東西に波及した。

日本にも仏教関連の文物とともに天然痘が持ち込まれた。奈良の都で藤原一族ら多くの死者が出た。聖武天皇は仏教の力で社会不安を乗り越えようとした。東大寺の大仏を造立し、遷都も繰り返した。

中世になると、欧州でペストが猛威をふるう。肌黒い斑点ができたため「黒死病」と呼ばれる。ペストは中央アジアで発生したと考えられている。13世紀にモンゴル帝国が西方に遠征し、欧州の一部まで版図を広げると、ペストも欧州に伝わった。交易が活発化しており、黒死病は欧州全域に波及した。欧州の人口の3分の1が死亡したという。

黒死病は欧州の社会を変える契機となった。長崎大熱帯医学研究所の山本太郎教授によると、多数の死者が出て農民ら労働者が急減した。当時は領主の下で農奴が働く封建社会

だった。人手不足で農奴の立場が相対的に強くなり、農業労働に賃金が払われるようになったとされる。ペストの脅威を防げなかった教会は権威を失い、人々の意識の中に「国家」の概念が生まれる。

中世の封建的身分制度は崩壊に向かい、主権国家による近代が誕生するきっかけとなった。山本教授は「欧州の黒死病の例のように、感染症は社会の変化を加速させることがある」と指摘する。

現在、多くの日本企業が、自宅で仕事をするテレワークを社員に勧めている。新型コロナウイルスの拡大も働き方改革を加速するかもしれない。

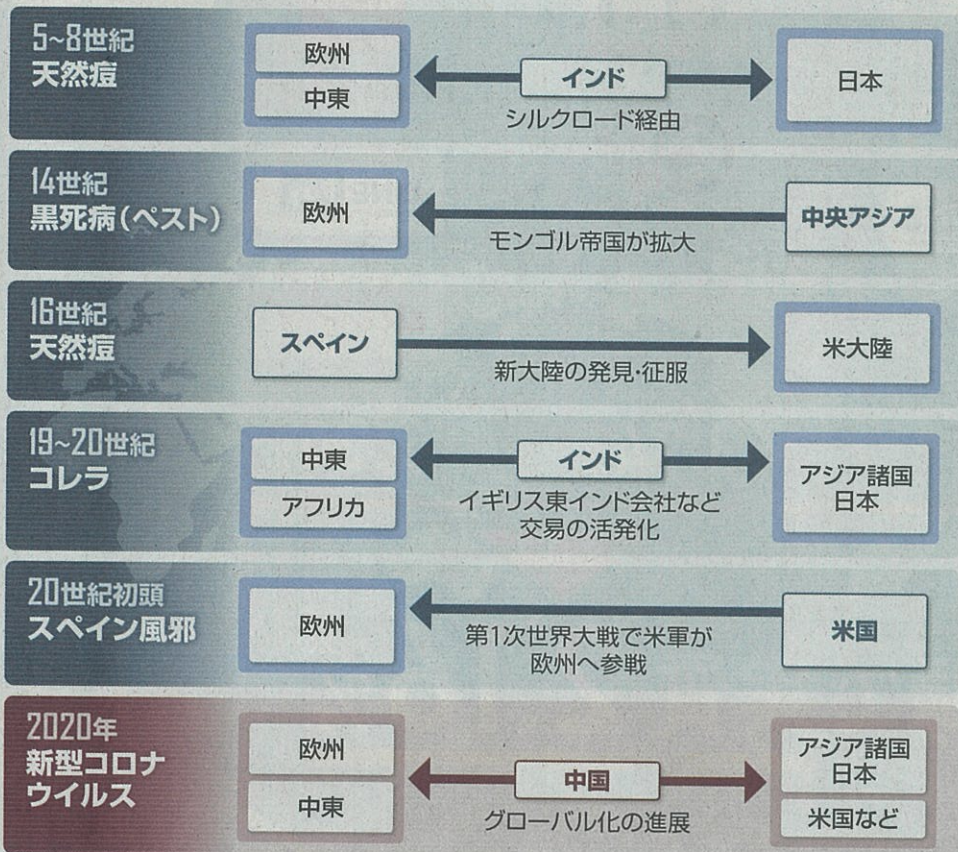
新大陸

「コロンブスの交換」という言葉がある。1492年のコロンブスによる新大陸への到達以来、欧州と南北アメリカ大陸の間で農作物などが交換された事実を指す。米歴史学者アルフレッド・クロスビーが名付けた。

米大陸から欧州にはトウ

① 人の移動や交易の活発化で感染症が拡大した

※いずれも主な学説による



モロコシやジャガイモが運ばれた。欧州からは小麦やサトウキビなどに加え、天然痘も伝わった。当時、欧州では天然痘が繰り返し流行しており、米大陸に赴いたスペイン人の多くには天然痘の免疫があった。スペインは征服に成功した。

一方、米大陸に天然痘は存在せず、先住民には天然痘の免疫がなかった。そこにスペイン人が天然痘を持ち込み、先住民の間で大流行する。死者が続出し、現在のメキシコにあったアステカ王国と、ペルーなどにあったインカ帝国は滅亡した。

東インド会社

大航海時代を経た19世紀

先住民にとり、天然痘に侵されないスペイン人は神のように見えたという。スペイン人が信仰するキリスト教に、先住民は比較的円滑に改宗したとされる。

日本は江戸時代後期だった。鎖国をかくぐり、長崎の貿易などを通じて入り込んだとみられている。江戸の町では「コロリ」と呼ばれて大流行し、多くの死者が出た。

コレラは19世紀から20世紀初めにかけて世界的な大流行を繰り返した。青山学院大の飯島渉教授（医療社会史）は「コレラが広がる

と水道の整備など公衆衛生の充実が求められ、『（行政の役割が拡大する）大きな政府』が志向されやすくなった」と指摘する。第1次世界大戦末期、1918-19年には「スペイン風邪」と呼ばれたインフルエンザが欧州に襲いかかった。

流行が始まったのは米国だった。米軍は欧州戦線への参戦を決め、兵士たちが海路、大西洋を渡り欧州へと向かった。

この船がインフルエンザウイルスを「輸送」したらしい。世界中で数千万人、大正時代の日本でも約40万

企業が生産拠点を集中させていることにある。企業は平時に効率を追求するなら、巨大市場が広がる中国に生産拠点を集め、中国の国内外への販売を狙うのが有効だ。

一方、今回のような感染症に備えるには、工場を中国以外にも分散させる必要があるが、経営効率は低下する。

政府の資料によると、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて「中国以外に所在する企業からの調達を強化」するとした企業の割合は37%に上る。調達先を中国に集中させるリスクを感じる企業がでてきているわけだ。米中の覇権争いも長期化しそうだ。新型コロナウイルスは日本企業に対し、ビジネスを変革すべきかどうか、問いかけてもいる。